



福島県相馬市・南相馬市の今とこれからを伝えるコミュニティペーパー

「そうま・かえる新聞」 2016年8月 第23号

発行所：そうま・かえる新聞編集部

〒976-0042 福島県相馬市中村1丁目13-3 モリタミュージック内
問い合わせ・配達希望：somakaeru@yahoo.co.jp

子どもたちに明るい未来を手渡すため
わたしたちは生き方を「変える」。
いのちを何よりも大切に「考える」。
まちをゲンキに「変える」。



http://somakaeru.com



ポレポレ方式復興応援ライブ in SOMA CITY

全国の愛が結実

出演者全員で演奏した「満月の夕」。出演者も来場者も一体となった

福島県相馬市・南相馬市応援プロジェクト「MY LIFE IS MY MESSAGE.」は5月14日、相馬市で「東日本大震災ポレポレ方式復興応援ライブ in SOMA CITY」を開きました。東日本大震災以降、復興応援ライブとして、広島県福山市にあるブギーマンズ・カフェ・ポレポレが、毎月開いてきた出演者が500円を払い3曲歌うというスタイルのライブで、北は札幌から、南は沖縄・石垣島まで、各地で同様のライブを開いてきたミュージシャンらが出演。全国各地から訪れた来場者で会場が埋め尽くされました。そして、福島・相馬に集結した愛は、熊本へとつながっていきました。

(柚原良洋/南相馬市)

2015年8月3日、「KAZEAASHI (カゼアシ) の2人に何かの形で東北に来てもらいたい」と、プロジェクトを率いるミュージシャンの山口洋さん(HEATWAVE)に私が伝えたことが、今回のイベントの始まりでした。プロジェクトとして、何をすればよいのか、悩んでいた時期だったと記憶しています。プロジェクトに寄付をしてくださった「スモール・ロッキン・タイム」というイベントから調べ、辿り着いたの

はカゼアシという広島市在住の2人組でした。彼らは広島県福山市にあるブギーマンズ・カフェ・ポレポレで行われている、東日本大震災復興応援ライブに参加し、自身も広島市でスモール・ロッキン・タイムという復興応援ライブを開催していました。山口さんを通じ、カゼアシに送ったメッセージに、カゼアシから次のような返信がありました。

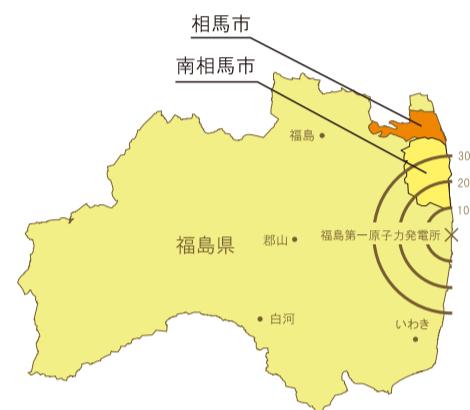
「戦後の広島は、復興ムードの中で、『広島の数だけ

が、いつまでも辛いと言いつける』と、言われていたそうです。放射能の影響など、日本中の人は何も知らなかった時のことです。広島に生き残った被爆者の方々は、耐えるしかなかったようです。私は44になる被曝2世ですが、その話を聞くと、ただ涙が出ます。

しかし、今の福島はどうでしょうか。もしかして、そのような事になってはいないでしょうか。

だから、私たちは、福島の人や子どもたちに『放射能の影響で、検査が来るたびに怖いよ』って、大きな声で言ってもええんよ、みんな心配しとるんよ、という気持ちを込めて、ポレポレに通ったり、地元で小さなイベントを開いたりしています(抜粋)

全国的には、報道されることが少なくなった今でも、東日本大震災、福島第1原子力発電所事故について、こちらが考えている以上に、カゼアシは福島のことを思い、活動を続けていたのです。



★そうまなぞなぞ 方言編 その15

「きどころ寝」ってなーんだ?

例)「そんなところできどころ寝すると風邪ひくよ」



熱い演奏を響かせた広島市のKAZEAASHI。ポレポレ方式復興応援ライブ全国大会を開ききっかけとなった

ポレポレ方式というのは、被災地から離れた場所で、自分たちも楽しみながら被災地を支援しようとライブの出演者が500円を払い3曲を歌うというライブです。山口さんがツアーで全国を廻る中で、被災地

に何が出来るかを考えていた人に「ポレポレ方式」を紹介。それが広島市や札幌市に飛び火していました。

今回、たった3曲のために集まったのは15組、総勢25人。ポレポレ方式ライブを主催している人のほか

にも、震災後ずっと東北を応援してくれている人たちが、最北は札幌、米沢、東京、大阪、京都、広島、福山、そして最南は石垣島と、全国各地から集まりました。

ライブは、プロもアマチュアも並列の条件の中で、出演者それぞれが短い時間の中で被災地への思いを語り、優しい雰囲気にも包まれながらも演奏は力強く、とても見ごたえがあるものでした。特に最後に全員で演奏した「満月の夕」では、会場が一つになり、これまで個々に存在していた全国の愛が結実したように感じました。

今回のイベントの目的の一つは、普段、福島まで来ることができない人に現地を見てもらい、現地の人と話し、復興の状況を知ってもらうこと。もう一つは、現地の人に、震災から5年以上が経過した今でも、福島のことを思っている人がいることを知ってもらうこと。そして何よりも音楽を通して楽しい時間を共有する、ということでした。

ライブ前日や当日、震災後初めて福島に来た出演者は、それぞれが空いた時間を利用して被災した現場を見に行きました。石垣島の池田さんは、島で牛を飼っており、かつて農業が盛んだった飯館村で除

染廃棄物が入ったフレコンバックが積み上げられた様子を見て、頭が整理できないと言っていました。宮城県南三陸町や南相馬市小高区を見た札幌チーム、福山・広島チームは、復興が進む部分と進んでいない部分、非日常と日常を垣間見て、その狭間で翻弄されていました。

そして、誰も予想していなかったのが4月の熊本地震でした。その出来事自体は厳しいものですが、今回はイベントの大きな目的として、被災地・熊本を応援することが加わりました。すでに、参加者はそれぞれ熊本・大分へ向けて活動をしている人も多く、九州へ向けて出演者の思いが一つになっていました。そしてそれは、来場者にも伝わり、被災地としてこれまで応援を受けていた相馬、南相馬でも、熊本を応援するきっかけとなりました。来場者からも多大なる寄付が寄せられました。

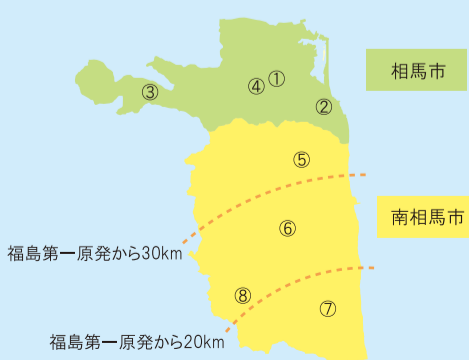
このイベントに全国各地から出演して下さった皆さま、会場としてご協力いただいたフレスコキクチさま、そして会場に駆けつけてくれた来場者の皆さまに感謝いたします。



札幌・円山夜想でポレポレ方式ライブ「500 L」を2012年から続けている本間健二さん(左)と辻正仁さん

相馬市・南相馬市放射線レベル測定値

(2016年6月30日 単位=マイクロシーベルト/毎時)



①相馬市総合福祉センター (はまなす館)	0.163 (0.001)
②磯部小学校	0.088 (0.011)
③玉野小学校	0.219 (0.009)
④馬陵公園長友グラウンド	0.135 (—)
⑤鹿島区役所	0.152 (△0.009)
⑥南相馬市役所 (原町区)	0.129 (△0.009)
⑦小高区役所 (避難指示解除準備区域)	0.074 (△0.001)
⑧鉄山ダム (居住制限区域)	1.559 (△0.196)
東京 (新宿区 東京都健康安全研究センター)	0.032 (—)

カッコ内の数値は前号の数値からの増減です。各地のモニタリングポストでの放射線レベル測定値は、原子力規制委員会のホームページで公開されています。

福島、全国から熊本へ

5月のポレポレ方式復興応援ライブ全国大会では、福島・相馬の地から、熊本地震で被災したみなさんにエールを送りたいと、全国から集まった出演者や来場者からメッセージが寄せられました。その一部を写真で紹介します。



そうま
×
福山

現在、「そうま・かえる新聞」や福島県相馬市・南相馬市応援プロジェクト「MY LIFE IS MY MESSAGE」には、全国に支えてくれる仲間が広がっています。このコーナーでは、そういった全国からの声を紹介していきます。

「被災地の風景、そして出会い」

Boogie Man's Caféポレポレ 手島裕(広島県福山市在住)

今年5月、郡山ワンステップフェスティバルで訪れて以来42年振りの東北。初めて被災地を訪れて、滞在期間3日間のうち、初日に目にしたのは、南三陸での津波の凄まじい惨状と、なんともシュールな復興に向けての工事現場…。翌朝は南相馬市小高区の人々の居ないまちを歩き、言葉に出来ないもやもやを抱えて帰ってきました。午後には楽しく美しいポレポレ方式復興応援ライブ全国大会に参加、この大きな感情の起伏に頭が追いつかない状態で福山に帰還。今もその状態のままこの原稿

に向かっていきます。

私は広島県福山市でポレポレというカフェをやっているバンドマンで手島裕といいます。

東日本大震災直後、私を含め回りの友人たちも皆沈んでいました。あの惨状を見聞きし、何も出来ない自分を責めてみたり、そんな状況で自分を少しでも元気にするために思いついたのが出演する人が500円募金して演奏するという応援ライブでした。

自分を救うために始めたそのライブで、多くの参

加者が元気になったと言ってくれました。そしてその募金を託す先として、HEATWAVEの山口洋さんたちが、相馬市や南相馬市を応援するプロジェクト「MY LIFE IS MY MESSAGE」を始めてくれて、またこのライブのことを「ポレポレ方式」と名づけ全国に広めてくれました。山口さんのブログで知ったという広島のパバンドKAZEASHIも毎月100%の道りを走り参加してくれ、ポレポレ方式のライブを広島市でも始めて、頼

もしい仲間が増え、ポレポレでのライブにも毎月新しい参加者が来てくれる良い循環が出来ました。

そんな時に柚原さんから「一度相馬に来ませんか」というお話をいただき、このチャンスは逃すまいと飛びついて、今回の「ポレポレ方式復興応援ライブ全国大会」に参加することになりました。

自分達のためにやっでることで募金を送るだけってことにちょっと後ろめたさもあり、一度は行かなくちゃと思いつつも日々の暮らしに追われる毎日。このお話で思い切って行くことが出来、とても感謝しています。5年が過ぎてもまだまだ何にも始まってない所があるということを感じることが出来ました。

こちらから見れば非日常の世界でも、そこに日々の暮らしがあり、そしてその日常こそがなによりも大事なことなんだと強く思いました。

そして何より嬉しかったことは今回のイベントを

作り上げたスタッフの方々の活き活きとした姿、後片付けでの参加者全員のテキパキとした動き、打ち上げでのほっとした笑顔。

直接会い、話すことの大切さ、混沌とした打ち上げを眺めながら震災がなければ出会うことのなかったこの素敵な人たちに出会ってくれたこのイベントに感謝しました。

私の思い付きが小さな受け皿になり、さらにプロジェクトMY LIFE IS MY MESSAGE.がその受け皿となってくれたことでこの素敵なイベントに繋がったと思うと私も続けてきて良かったなって嬉しくなりました。

あの南相馬市小高区で感じたもやもやを忘れることは出来ませんが、また皆さんに会いに行こうと、今度はいつ行けるかなって考えている自分が居ます。

編集部からみなさんのサポートに感謝を

全国のみなさんから、たくさん愛のあるサポートをいただけて「そうま・かえる新聞」は発行されています。3/1~6/30までのサポートご支援(右記口座への寄付ご入金)は、482,804円(このうち熊本への寄付が285,802円)です。ご支援、本当にありがとうございます。

次号は2016年10月発行予定です。

「そうま・かえる新聞」はみなさんに寄付のお願いをしています。額の大小は問いません。全額を「そうま・かえる新聞」発行のための経費として使用させていただきます。寄付の際には可能であればメールなどでご連絡先(お名前、ご住所など)をお知らせいただけると幸いです。

- 郵便局からお振り込みの場合
口座/ゆうちょ銀行 記号/18290
番号/30483531
- 他銀行からお振り込みの場合
口座/ゆうちょ銀行 店名/八二八(読みハチニハチ)
店番/828 預金種目/普通口座 口座番号/3048353
口座名/そうまかえる新聞編集部



【そうま・かえる新聞】
2016年8月 第23号
発行元 そうま・かえる新聞編集部
http://somakaeru.com
連絡先 そうま・かえる新聞編集部
e-mail somakaeru@yahoo.co.jp

所在地 〒976-0042 福島県相馬市中村1丁目13-3
モリタミュージック内
編集 相馬市・南相馬市ほか有志
協力 かえる新聞(いわちの子供を守るネットワーク)

★記事の転載や転用をご希望の方はそうま・かえる新聞編集部までお問い合わせください。